

解題

詩訣 一卷

阮瑜 著

阮本姓は源、自ら修して阮とす、又姓祇園を自ら修して祇とす、瑜初の名は正卿、字は伯玉、南海と號す、又た蓬萊、鐵冠道人と號す、俗稱は與一、其の居を名づけて湘雲と曰ふ、紀州藩の文學なり、天資雋逸にして文藻あり、幼にして父に隨ひ江戸に來り、年甫めて十四にして、木下順庵に學び、尤も詩に長ぜり、正徳中、朝鮮聘使に江戸に會見せり、世に松浦禎卿と併せ稱して木門の二妙と曰ふ、又新井白石、梁田蛻岩と併せ稱して三大家と曰ふ、寶曆元年九月八日歿す、年七十五。此書は、初學の徒を誘掖せんが爲めに作りしものにして、詩の構造より、字に句に、體格に、皆雅俗の別あることを述べ、且つ古風近體の異同を説き極めて切實懇到なり。

詩訣序

是爲祗伯玉詩訣，蓋嘗所口授其門人小子者。門人以國字錄之，以爲帳祕。書肆某氏因緣得之，遂梓公於世。需序於余。余謂伯玉錦心繡腸，詩名顯赫海內，固不俟余言。亦唯其人跌宕天才超凡矣。是以人嚴其氣節，今閱斯冊子，規規乎字法，切切乎音響，其丁寧告誡，全似于小心謹飭之士所爲者。是伯玉之所以爲伯玉歟。其人可想也。要之忠實耳。人苟無忠實，則百般藝業不足稱焉。宜乎其人已沒，幸木將拱，而人猶思慕之。欽稱之。瑣瑣詹言，如斯冊子，亦寶重之。以比諸桂林一枝，崑岡片玉者，誠有以哉。然則某氏梓之以公於世，亦復可嘉稱。是爲序。

天明丁未仲冬

北海江 邨 綬 撰

詩訣。南海先生與子弟茗話之餘論也。傍人私筆稟名之謂詩訣也。而歸於烏有氏者十餘年矣。偶都下之書肆搜得於敗紙中而祕藏之者復有年矣。終慮免於懷寶之責。苦請上梓也。然而祖君固惡於上梓。家大人亦不肯之也。徒倚立岐路。其可以北可以南之懼。而願之從。所他欲亦可也耳。蓋不用諸饕校文字之誤。語之鄙拙亦不少也。冀君子嘗一嚮。得不捨鼎肉。幸甚也。

天明丁未秋八月

劣孫 祇園長幹 識

南海詩訣序

亡友葛子琴於詩爲浪華一名家。嘗語余曰：吾於本土詩人不必屬意。唯南海阮先生所欣慕焉。恨不同其時耳。乃已。按刻其集。噫。賞音之士哉。先生自少小最善詩。其私試前後一夜百首。膾炙人口。況於其集之行乎。不獨善詩。其論亦高。近歲出於散逸之餘者。千金享之。以布于市。已二三矣。若南海詩訣亦是也。余爲人囑寓目於此。亡論夫解人頤其所自得。可以知已。不使子琴受讀憾甚。蓋其嗣餐霞先生前已一言付余。小南游草。今藉人題以完璧。亦不爲無因也。

河曲合離撰

皎皎練絲。在所染之。染之匪正。則卽江漢以濯之。秋陽以暴之。雖求其素。也不可得矣。固亡論乎法故而已。學詩之道。槩類于此。一入汚之。綠衣黃裳。遂爲終身之累。故大匠不爲拙工。改廢繩墨。豈可以初學忽之哉。詩話詩叢詩家法故也。於我桑城紹之者。祇南海詩訣有是哉。其旨約而溥。簡而緊。公而正。講之習之。載玄載黃。粲然五采。從意所適。煥乎文章。隨筆而成。是之謂依法故。

丁未仲冬

浪華 筱應道 撰

詩訣

南海阮瑜著

日出扶桑路。遙升若木枝。雲間五色滿。霞際九光披。東陸蒼龍駕。南郊赤羽

馳。傾心比葵藿。朝夕奉堯曦。

扶桑若木ハ、皆東方ニアル木ナリ、首二句、先ツ日出ル處ヲ云、三四、雲ト霞ヲアヒシラヒテ、五色九光ト、日ノ明ナル體ヲ云、東陸ハ日ノ天ヲユク路筋ナリ、春ハ東陸ヲユキ、秋ハ西陸ヲユクト云リ、羲和ト云ル日ノ神ハ、六ツノ龍ニ駕シテ日ヲ御スト云リ、故ニ東陸蒼龍駕ト云、蒼ハ青キ色、東方ノ色、春ノ龍ヲ云、此一句春ノ日ヲ云、南郊ハ、天子冬至ニ南郊ニ日ヲ祭ヲコレヲ迎ヘ玉フ、赤羽ハ日ニ譬フルノミ、此句冬ノ日ヲ云、結句ノ意、葵藿ハ其葉日ニ傾クト云リ、吾亦コレト同ク、朝夕ニ日ノ光曦ヲ奉テ、心ヲ傾ケ誠ヲツクスヘシト云、一篇ノ意ハ、先ツ日ハ扶桑

若木ヨリ出テ、雲霞ノ間ニ五色九光ヲ顯シ春冬滯ルコト無ク、世界ヲ照ス、其德至テ大ナリ、然レハ人間日ノ影ニヨリ、生ヲ安ク送ルモノナレハ、其德ヲ奉シテ、心ヲ傾ケテ、日ノ德ニソムカサルヘシ、故ニ吾亦葵藿ノ如ク、一心ヲ傾ケテ、先ツ光曦ヲ奉シ、日々懈怠ナク、其務ルコトヲ勵メンノミ。

句ノ次第ハ、日先ツ出サレハ光見ルヘカラス、故ニ先ツ其出ルヲ見テ光ヲ知ル。因テ四季ニ滯リナク天ヲ廻ル德ヲ次ニ云、結句ニ、吾身ノ上ヘ歸シテ、葵藿ノ古語ヲ引テ結ヘリ。

月

桂滿三五夕。 露分二八時。 清輝飛鵲銜。 新影學蛾眉。 皎潔臨疎牖。 玲瓏鑿薄帷。 願言從愛客。 清夜幸同嬉。

首句先ツ月ノ時節ヲ云、三五ニ盈チ、二八ニ缺ク、一月ノ間、盈缺アルコト如此、サテ其形チハ、イカナルモノト云ハ、三五ノ時盈テ圓カナル輝ノ清キコトハ、鑑ノ如ク、二八ヨリ缺テ後ノ月、漸ク三日四日ニ至リ、新ニ影ヲ顯ス、其形チ曲リテ眉ノ如シ、故ニ牖ニノツミテハ甚タ皎潔ニ、帷ヲ鑿シテハ亦玲瓏トスキトホレリ。

如此ナル月ナレハ、賞スルニ堪タルモノナリ、コレヲ、タ、獨リ眺メテハ興ナカ
 ルヘシ、願クハ言ニ愛客ヲ得テ、清夜同ク嬉マハ、イカハカリノ興ナラン、然レト
 モ、常ニ障リカチナル浮世ナレハ、如此コト、キハメテ得カタキニ、今客モアリ、月
 モ清ク、吾モ障リナクシテ、同ク賞スルゴトハ、幸ト云フヘシト結ヘリ、愛客ハ氣
 ニ入タル友ナリ、鵲鑑ハ只鑑ナリ、鑑ノウラニハ、鵲ヲ鑄ルモノユエ、鵲鑑ト云フ、
 蛾眉ハ只眉ナリ、美人ノ眉蛾ノ蟲ノ眉ノ如シ、故ニ蛾眉ト云ヘリ、鵲ト蛾トハ、字
 フ文タルハカリナレトモ、是ニテ詩、ハナヤカニナルナリ、何レノ詩ニモ、如此處
 ハ作者ノ物好ニテ、古來用ヒ來ル所ノ字ヲ擇ヒテ取用フ、コレヲ材ト云フ、疎牖
 ハ何牖ニテモカハリナシ、然レトモ、月ノ入ルハ疎ナル處ヨリ、ヨクサシ入レハ
 疎牖ト云リ、薄帷ハ只帷ナリ、薄ケレハ、月ヨク透リ照ラスユエ薄ト云フ、尤阮籍
 カ句ニ、薄帷鑒明月トアレハ、據アルユエ、イヨ／＼コレヲ用ヒタルナリ。

此詩、首ハ時節、次ハ形チ、次ハ光、結句ハ吾賞翫ヲ以テ結フ。

霧

曹公迷楚澤、漢帝出平城、涿野妖氛靜、丹山霧色明、類煙飛稍重、方雨散還

輕^レ倚^シ入^ル非熊^ノ繇^ノ。寧思^シ玄豹^ノ情^ヲ。

首ノ句、言ハ吾霧ヲ賦スニ就テ、昔ヲ思ヘハ、曹公、夢澤ニテ大霧ニ迷ヒシ事モアリ。又漢ノ高祖平城ニ圍マレシ時、大霧三日晴サルニ因テ、圍ヲ出タルコトナト思ヒ出スニ、サテモ、霧ハ昏クコモルモノカナ、サレハ、昔黃帝蚩尤ト涿鹿ニ戰レシ時、蚩尤術ヲ以テ大霧ヲ起シ軍兵ヲ迷ハセシハ、天地ノ霧トハ替リ、術ニテ起シタル霧ナレハ、妖氣ト云ヘシ、夫故黃帝風后ニ命シ、指南車ヲ作リテ東西ヲ辨シ、軍ニ勝玉ヒシヲ、妖氣靜マルト云ヘリ。又丹山トイヘル處アリ、天ヨク晴ルハ、時ハ必ス霧フリテ、後ニキハメテ雨フルト云ヘルモ、他處ニカハリタル霧ナリ。カク霧ニモ品々アリトイヘトモ、大抵其形ヲ見レハ、何レモ煙ニ類シテ、煙ヨリハ、霏霏ト飛フ、重クシテ朦朧タリ、然レハ細雨ニ似タレトモ、雨ニ方レハ、散シテ遷テ輕ク見エ、コレ先ツ霧ノ形容ハ如此、サテ南山ノ玄豹ハ、霧ニ隱レ、其毛ヲ澤シテ、其文采ヲ惜ミ、深ク霧ニ隱ルト云ヘリ、コレ君子ノ德ヲ匿シテ、世ニアラハルハ、コトヲ嫌フト同シ、然レトモ昔文王ノ夢ニ、獵シテ大人ヲ得ルト見玉フ時、其繇ニ非熊非熊ト云シカ、果シテ太公望ヲ得玉ヘリ、太公望モ海濱ニ德ヲ藏シ、

玄豹ノ霧ニ隠ル、如クナリシカトモ、非熊ノ夢ノ繇アリカタキ聖徳ニ逢タルヲ喜ヒ出テ仕ヘシナリ、然レハ此時霧ニ隠ル、玄豹ノ情ハ、寧思フマシキナリト、霧ニ就テ、隠ル、見ハル、ノ字ヲ立テ尾句ヲ結フ。

帷

久閉先生戸。高塞太守車。羅將翡翠合。錦逐鳳皇舒。明月彈琴夜。清風入幌初。方知決勝策。黃石受兵書。

先ツ帷ヲ言ントテ、帷ノアルヘキ處ヲ云、昔孫敬、戸ヲ閉テ學問シタル時ヲ思フニ、常ニ帷ヲ垂タルヘシ、又太守ノ郡ヲ巡檢スル時ハ、遠ク見ン爲ニ車ノ帷ヲ褰ル習ヒナリ、サテ帷ノ製ハ、羅ニテ作タレハ、翡翠帳ト製法相合ヒ、透トホルヤウニ見タルモノナリ、又結構ナル帷ハ、錦ニテモ製ス、其時ハ織付タル鳳皇ノ紋カラテ舒開テ、帷ヲタル、故、鳳皇ヲ逐テ舒ト云リ、帷ノ製ハ已ニ如此、サテ帷ヲ垂タル時ノ景色ヲ云ハ、明月ノ夜、琴ヲ彈スル人ナト、帷ヲ垂レテ夜氣ヲ拒キ、又ハ清風ノ初テ涼ク幌ニ入ル比ハ、風ノ帷ヲ飄スナト、面白カルヘシトナリ、コレニ就テ思ヘハ、帷中ニ居ル人幾千萬人アリトイヘトモ、昔張良カ、計策ヲ帷幕ノ中

ニ居ナカラ運ラシテ、勝コトヲ千里ノ外ニ決ムトハ、スケレタル材智ナリト方ニ知ルヘシ、然レトモ、此豈無學ニテ能ク如此ナランヤ、元來黃石公ニ從テ兵書ヲ受得タル故ナレハ、學事ハ人ノ尤モ勤ムヘキコトナリ、然レハ、孫敬カ戸ヲ閉テ學ヒタルハ、尤ナリト首尾ヲ結ヒ合セタル篇法ナリ。

此詩又一格ナリ、五六ノ句、曾テ帷ニモタレタルコトニアラス、帷ヲ垂レタラン時ノ景色ヲ思ヒヤリテ、帷ニサハラヌ句ヲ下ス、コレ寫影ノ手ナリ、此所モハヤ帷ノ故事モ無ク帷ノ形態モ説ヘキナシ、故ニ明月清風ヲ借テ、帷ノ用ヲアラハセリ、時々此意得アルヘキコトナリ。

結句帷ノ事ニアラス、唯帷幄ノ中ニ籌策ヲ運ラスト云事アルユエニ、ソレニスカリテ趣向ヲ立テ、何トヤラン帷ノ事ハ外ニナリテ、張良カ才智ノ方ヘ轉シタルヤウニテ如何ト思ハル、故ニ首句ニ、孫敬閉戸ノ事ヲ用ヒテ、學ヲ勤ムル下心ヲ通シタル捷作ノ内ニモ、ヒカヘ綱ヲ付テ、事異ニナラサル意得、甚タ功勞ノ者ノ手段ナリ。

コレハ、最初ヨリ斯思ヒ入テ作ルニハアラス、結句張良カ兵書ハ趣向行スキタ

ル故、作り立タル後、起句ノ一句ヲ仕立替テ、孫敬ヲ用テ繫クナリ、初ハ外ノ句ニ
 テアリタルナリ、捷作ニハ何レモ此心得ニテ作ルヘシ、必ス初ヨリムツカシク
 趣向ヲ立ルニアラス。

李

潘岳間居日。王戎戲陌辰。蝶遊芳徑覆。鶯囀弱枝新。葉暗青房晚。花明玉井
 春。方知有靈幹。特用表真人。

首句先ツ故事ヲ用テ云、昔日潘岳カ河陽ニ間居セシカ、桃李ヲ多ク栽タル由、又
 王戎カ幼稚ノ時、陌上ニ戲レ遊ヒシニ、李ノ多ク實タルアリ、群兒木ニ上リ争テ
 コレヲ採ル、王戎獨リ陌上ニ坐シテ、見ヤリモセス、人不思議ニ思テ問ケレハ、王
 戎カ云ルハ、此往還ノ陌上ニ、アノ如ク茂ク實テモ、人ノ採去ラヌハ、苦李ナルヘ
 シ、故ニ我コレヲ採ラスト、果シテ此李實苦カリケルニヨリ、人王戎カ智ニ服セ
 シトナリ、今李ヲ賦スルニ就テ、此兩人ヲ思フニ、潘岳カ花、王戎カ實、皆人ニ勝レ
 ルコトカナト感セルナリ、サテ其李ノ花盛ノ比ハ、蝶鶯ノ遊ヒ囀ル春景面白カ
 ルヘシ、ソレノミナラス、青房青房ハ東宮ヲ云、唐ハ李氏ナリ、時ノ天ノ邊ニ、夏ノ葉

茂リ、玉井ノ側ニ、花ノ明ナル、何レノ地ニ植テモ宜キ樹ナリ、孟子ニ井上有李ト云ルヨリ、玉井トモ用ヒタリ、如此樹ナレハ靈幹トフシキナル仙木ト云ヘシ、サレハ昔老子ハ李樹ノ下ニ生レ、李ヲ指テ姓トシ、勝レタル真人ニテアリシコト、李樹ノ靈幹ナルユエ、此真人ノ徳ヲ表シテ、姓トモナリタルナルヘシト結フ。

上ノ詩モ此ノ詩モ、第七句ニ、方知ノ字ニテ轉ス、此餘、第七句ノ轉スル所ニ用ル字極リアリ、左ニ記ス。

還欣願言、更知、莫言、儻逢、冀居、何當、寄語、勿謂、若能、
 不用、若令、唯當、方思、誰知、安能、誰憐、可憐、詎知、因思、
 寧知、豈知、獨有、別有、更看、請看、

大抵如此ノ類ノ字ニテ趣向ヲ結フヘシ。若七句目ノ上ニ如此置テハ、平仄叶ヒカタキカ、又ハ下ノ語短ク、三字ニツ、キ難キ時ハ、上二字ハ形アル字ニテ、下三字右ノ如クナル、テニハ字ヲ用ヒテ結フヘシ。

子期如可聽、同心如可贈、短簾何以奏、
 、、雖如此、、、既如此、、、誰又識、

如此ノ類ナリ、又テニハラ用ヒスシテ轉スルコトモアリ、コレハ希ナリトイヘ
トモ、句體ニヨリ、テニハラ用ヒテハ、句長クナルカ如キハ、實字ニテ作り棄ニモ
スヘシ。

〔五湖多賞樂。〕

蘇秦六百步。

安仁勳秋興。

千里望難窮。

持此說韓王。

魚鳥思空除。

如此類、タマシアルベシ。

詩法雅俗辨

大凡詩ヲ作ルハ風雅ヲ本トス。風ハ國風、雅ハ大雅小雅分ケテ云ヘハ、風トハ里巷
歌謠トテ、當世ノハヤリウタナリ、雅ハ賢人君子ノ作レル詩ナリ、今ノ人ノ作ル詩、
既ニ三百篇ノ文字ニモ變リ、體裁モ異ナリトイヘトモ、詩歌ノ道世々ニ移リ變ル
コト、天地風氣ノ變ト、時世ノ盛衰ニツレテ不變コトヲ得ス、故ニ三百篇變シテ騷
トナリ、賦トナル、賦騷變シテ漢魏ノ古詩トナリ、漢魏ノ古詩變シテ六朝トナリ、六
朝變シテ唐トナル、唐ノ内又初盛中晚ニ分レ、夫ヨリ宋元ニ變シ、或ハ詩餘ニ變ス
明興テ又唐ニ變ス、其變スルコト、文字體製ハカハレトモ、風雅ノ趣ニ出ルコトナ

リ、然レハ、風雅ハモト詩體ノ號ナレドモ、今其趣ヲ用ルカタメニ、詩コトノク面
白キ趣アリ、指テムツカシキ語ヲナサ、レトモ、餘所カマシク景境ニナソラヘナ
カラ、其真情言外ニアフル、此ヲ風トス、タトヘハ、風ノ物ヲ化スル如ク、目ニハサ
タカニ見エストイヘトモ、感スル所切ナレハナリ、此意何レノ詩ニモナクンハア
ラスト云ヘトモ、大抵今ノ詩ニナソラヘ云ハ、絶句ハ風ノ意ナリ律詩ハ雅ノ體ナ
リ、短ク云ヘハ、カタスマラサルト、シカトシカタキトノ分ナリ、先ツコレハ、風雅ノ
二字ノ差別ヲ示スノミ、雅俗ト對スル時ハ、雅ハ上ニ云トホリニテ、賢人君子材學
ノ人ノ語ナリ、故ニ卑劣下輩ナル詞少モナシ、皆ウチ上リタル、シホラシキ辭ノミ
ナリ、風モ里巷ノ化トイヘトモ、其詞ウチツケナラス、物ニナソラヘ、シホラシク言
タル故雅ニオトルニアラストイヘトモ、其詞君子ノ詞トハ、言フ所ニカハリアリ、
其イヤシカラザル、風雅共ニ同キ故、雅トイヘハ、風モコモレリ、但シ雅俗ト竝ヘ言
フ時、風雅俗ト云ハ、辭ハシタニテ語ヲナサ、ル故、雅俗トハ稱スルノミ、凡ソ詩經
篇目ノ沙汰ヲ云フ外ハ、風雅ハ一字ニテ云ヘトモ、二字ノ義モコモレリ、凡ソ此以
下ニ雅ト云フ皆此意ナリ、サテ俗トハ、先ツハ世上ノハヤリ風俗ト云フ、モト其字

義ナリ、其ハヤリ風俗ニハ善モアリ、惡モアリナヘテ俗ヲキラフヘキニハアラス、
 雅俗ト對スル時ハ、俗ノ字ノ意先ツイヤシト訓スヘシ、タトヘハ、常ニ云習ハス、凡
 下卑劣ノ常談、尺牘小説ノ語、又ハ金銀賣買飲食猥雜ノ詞、田夫野人婦女倡劇ノ語
 等皆之ヲ俗トス、タトヒ、文字ハ風雅ノ文字ナリトモ、其語勢ノ卑劣ナルハ亦俗ト
 ス、又俗語ニ此方ノ俗語アリ、漢土ノ俗語アリ、昔ノ雅語、今却テ俗ニナルアリ、昔ノ
 俗語、今却テ雅語トナルアリ、文字モ詞モ俗ニアラスシテ、全篇俗ナル詩アリ、其人
 一代ノ詩、總テ俗ナル者アリ、又實事ヲ云ハ俗ニナルアリ、近ク之ヲ云ヘハ、雅ハ、ヲ
 リメタカナル詞ナリ、俗ハ、平ラダキ語ナリ、凡ソ詩ヲ作ラントスル人、入門ノ初ヨ
 リ、雅俗ノ二字ノ辨ヲヨク心得知ルコト、是大乗ノ法門ナリ、此ワキマヘナク、上手
 ニナラントノミハケミスレバ、千篇萬篇、雲ノ如クニ涌キ、海ノ如クニ廣ク、凡ソ詩ト
 ハ云ヘカラス、タ、詞ト云ヘシ、此心得ヲ合點シテ作ル人ハ、一言一句ニテモ、打上
 リ卑劣ナラス、タトヘ上手ニアラストモ、先ツ詩ト名ツクヘシ、大底詩ヲ學フ人、此
 說ヲ聞サル人モ無トイヘトモ、俗ヲ離レ雅ニ入ルコト能ハサルハ何ソヤ、之ヲ察
 スルニ、其品三アリ、一ニハ性得卑劣ニシテ高尚ノ志ナク、言フ詞自然ト凡俗ニシ

テ、淺ク近ク清秀ノ趣ナキ此一種ノ人ハ、トテモ詩腸ナシト知ルヘシ、天地ノ間凡
 音アルモノ詩ニアラスト云事ナシ、如何ソ此人ノミヲ棄ンヤト疑フ人モアルヘ
 シ、固全體ノ理ハ、シカリトイヘトモ、水ニ温泉アリ、火ニ寒火アリ、人ニ下愚アリ、此
 俗漢、終ニ詩腸ナシトイハサルヘケンヤ、二ニハ、高上ノ詩人ト交ルコトナク、常ニ
 作習フ小兒輩トノミ、唱和吟咏スルノミナルカ故ニ、カノ素人ヲ悦ハシメンタメ、
 卑劣凡庸ノ語ヲナシテ面白カラヌ事ヲ好ミ、高妙ノ句ハ耳遠シト心得タル、昔ヨ
 リ獨學固陋ト云ルコノ類ナリ、第三ニハ、好テ語ヲ巧ニセント欲スル人、必ス俗ニ
 陷ル習ヒ、古來ヨリ其例多シ、コレ名人ノ上ニモ、免レサルヤマヒニテ、古人モ堅ク
 コレヲ戒ム、タトヘハ、池塘生春草、澄江淨如練、ト云ヒ、楓落吳江冷、ト云タクヒ、何ノ
 巧カアル、皆平常ノ趣向ナリトイヘトモ、其語高雅ニシテ一字モ俗ニ入ラサル處、
 是ヲ以テ古今稱美ス、凡妙句ト云皆此類ナリ、コレ雅ナル處ナリ、或ハ馬上續殘夢、
 ト云、洛陽三月春如錦、多少工夫織得成、ト云カ如キ、皆巧ヲ求テ俗ニ陷ル、笑フヘキ
 ノ甚キモノナリ、此三ノ外態ト好テ俗ニ作ルモノアリ、白樂天是ナリ、本邦ニテ昔
 此風ノ耳近ニシテ、面白カリケレハ、持テハヤラカシタルニヨリ、近世マテモ外ノ

詩ヲ知ラス、俗人コレヲ唱ル故ニ、樂天ハ詩人ナリト稱揚スレトモ、然ラス、三百年ノ詩人、其數幾百人、樂天カ如キハ、ハルカ下品ニ列ス、高擡カ品彙ニ、彼カ詩ヲ選ブコト僅ニ數首ノミナリ、是ヲ以テ上乘ニアラサルコトヲ知ルヘシ、漢土ノ人ハサヲナリ、本邦ノ人、雅語ト云フヲ知ラス、マシテ樂天カ詩ヲ見ハ、舊習ノ上ニ新染ヲ添ヌヘシ、相戒テ樂天カ詩、及ヒ宋元ノ詩ヲ見ルコトナカレ、其俗病ヲ治スルコト他ナシ、唯深ク李太白カ詩、及ヒ岑參カ詩、此二集ヲ常ニ吟誦スル時ハ、自然ニ俗病ヲ免ルヘシ、盛唐トテモ、王維カ詩ハ癡重ニシテ、其詩ハ上乘ナレトモ、見ル人ハ俗ニ陷ノ病アルヘシ、初唐ノ律絶ニ大俗ナル句アリ、能々吟誦スヘシ、然レトモ、知ラサルモノハ、唯古人ノ詩ナリトハカリ心得、其中ノ病處ヲ知ルコトカタシ、其品、言句ニハ盡シカタシトイヘトモ、試ニ雅俗ノ語ヲ一二コ、ニ舉ク、譬ハ前ニ云凡下卑劣ノ語トハ

君_レ是_レ竹馬_レ友_レ 更_レ闌_レ油盡_レ乾_レ 杯_レ酒_レ興_レ無_レ窮_レ 千_レ秋_レ萬_レ歲_レ 興_レ無_レ窮_レ 仰_レ祝_レ鶴_レ龜_レ壽_レ
 然_レ吟_レ聲_レ 携_レ吟_レ杖_レ 開_レ酒_レ樽_レ 拭_レ汗_レ 苦_レ思_レ 題_レ句_レ 索_レ句_レ 詩_レ句_レ 酒_レ杯_レ 花_レ一_レ朶_レ
 一_レ般_レ新_レ 風_レ味_レ 一_レ味_レ涼_レ 酒_レ味_レ 酌_レ酒_レ 問_レ婦_レ有_レ酒_レ無_レ 時_レ平_レ門_レ不_レ鎖_レ 君_レ是_レ

大丈夫。俗ナリ。燈。月色如銀餅。輾出。看來。將去。煮茶。飲茶。茶酒。茶禪。

煮茗。吸茗。若ナトハ雅ニナレリ。尙又。一盞茗。苦茗。是等皆俗ナリ。同クハ茶。積鼻禪。

此字。史記ニ出テ、古キ文字ナリトイヘトモ、卑劣ニテ風雅ニア。捫蝨。薰蚊。呼犬。

猫睡。睡貓。燒柴火。鬪爐。吹火。宋詩ニ、兒孫吹火賽花。淚沾袖。巾ト云ハ。凡此類

太多。不可枚舉。

尺牘ノ語トハ

千萬。珍重。不審。亮察。銀鹿。使ナ。叱留。貴恙。感作。多幸。幸甚。家

眷。未間。重テ進フマテノ内ト云、右ノ類、尺牘ニ用ル字甚多シ、詩ニハ皆俗トス。

小説ノ語トハ、定タルコトナシ、只小説ヲ本トシテ文字ヲ取ヘカラス、小説ノ故事

人名名物等コレヲ取ヘカラス、後世雜劇演義等ノ語ハ、下漢ノ俗語ノ條ニ出ルニ

同シ。

金銀買賣飲食狼雜ノ語トハ

米價貴。買酒。無錢。一文錢。

酒債典衣ハ雅事、子美モ用フ、然レトモ、凡如此ノ文字ヲ用テ、詩ノ面白ト云フ深キ

子細アリ、スヘテ是等ノ事ヲ稱美スルコト、甚タ高才名賢ノ上ニテ、世ニ不遇貧窮ナルヲ以テ矯激シテ云ル詞ナリ、李白カ金龜換酒ト云モ同ク、又疎懶ノ字モ、名家多ク用ヒ來ル、皆世ニステラレタル賢者ノ言コトナリ、常ノ人ノ衣ヲ典シ、金龜ヲ酒ニ換ヘ、物事疎懶ナルハ、甚タヨカラヌコトニテ、稱美スルニ足ラス、凡カヤウナルコト心得アルヘシ、此外文章ト云字ハ何ニテモ文章ナレトモ、詩ニ文章ト作ルハ、名人ノ文ニテノコトナリ、文章モ、得ヌ人文章ヨハ、リハ、無位ノ人ノ衣冠ヲ言、貧乏人ノ金銀ヲ言カ如シ、名人ノ挨拶ハ各別ナリ、押出シテイヘルコトハ、何ニ限ラス此心得ナリ、酒債典衣モ杜子美ニテハ面白シ、常人ハヲカシカラス、タ、無キ事ヲ言ノ類ニテ卑シ。

賣魚ウヰナ 買魚カウヰ 賣花ウヰナ 花ハ 雅物ナレトモ賣
ノ字ニテ甚タ卑シ

一 飲食ノ文字、酒ノ外ニ旬好ハ、鱸膾銀膾、蕙肴、綺膳ノ如キ、雅字ヲ加テ用フヘシ、其餘ハ必ス用フヘカラス、因テ論ス、予連年宋朝ノ詩ヲ見ルニ、何レモ飲食ノ事ナキハナシ、唐ニモ、杏酪、寒食ノ餠等ヲ用ヒタルモアリ、王維カ飯帶石田沙ト作レルハ甚タ妙ナリ、然レトモ、千萬ニ一二ナリ、宋朝ノ詩ハ十七八喫茶飲食ノ事アリ

今盡ク擧ルニ及ハス、考テ知ルヘシ、是宋朝ノ卑劣ナル一據トスヘシ、サレハ、詩ハ漢土ノ文字故、此方ノ不案内ニテ合點ユクマシ、暫ク和歌ヲ以テ云シニ、二十一代集其餘ノ集ニモ、終ニ賈買飲食ノ事ヲ詠セシワキカス、歌ノ品ニヨリ、其詞ノアルモアルヘシ、先ツハ月、雪、花、紅葉ノ外、餅、飯、羹、醬、醃、膾ノ如キ、ヨモ歌ニ詠テ、ヨシトハ見エマシ、宋人如何ソ常ニ是等ノ文字ヲ詩中ニ用ヒテ忌憚ルコトナカリキ、豈詩ノ衰ルニアラスヤ。

一 猥雜ノ語トハ俳言ナリ、大概俗語ノ條ニ出ルカ如シ。

一 田夫野人ノ語、桑麻ヲ談シ、機杼ヲ聞ヲ、古人以テ雅事トシ、田家野居ハ、詩人ノ最モ愛スル所ナリトイヘトモ、田家租稅ノ催促ニ貧ヲ歎クナト、例ノ泣事ノ外、或ハ年ノ豊凶糞壤ノ好惡、牛馬布帛等ノ沙汰ヲ細ニ説クカ如キハ詩ニアラス、莊家ノ手帳ナルヘシ。

一 倡劇婦女ノ語ハ、大抵ハヤリ詞ナリ、此方ノハヤリ詞ハ、詞ニサヘ宜シカラス、マシテ詩中ニ入ルマシキコトハ、初學モ知ル所ナリ、漢土ノ書ニ、クワワヲ忘八ト云、傾城買ヲ嫖客ト云、クワシヤヲ鴛子ト云、芝居ノ女形ヲ且ト云ノ類、誤テ用フヘ

カラス。

一 文字ハ風雅ナレトモ俗ニナル字アリ。

風々。雨々。十々。五々。燕々。鶯々。千龜萬鶴。醒酒氷トコロ。花炮ハナ。荷包キンチ。月々紅。月季。逡巡碑ニセイ。走馬燈マハリト。羅漢松キ。瀟湘

疾竹。綠天。芭蕉。

是等ノ字題ニ出レハ是非ナシ、詩中ニハ用フベカラズ。

一 和ノ俗語トハ、上ニ云如ク、常ニ用ル和ノ俗語ヲ詩中ニ用フベカラズ、雖モ能知ルトイヘトモ、物ノ名、所ノ名等、至テ誤リ用ルコト多シ、タトヘバ、先輩ノ花ノ詩ニ、佐國ヲ用ヒ、又小町ヲ作入レ、或ハ素麴ヲ用ヒ、或ハ長樂ノ鐘聲ニ、祇園ノ樹色ト云フ、祇園ハ古字ナレトモ、和ノ地名ナレハ俗ナリ、甚シキハ、山谷カ詩ヲ據トシテ、五十三驛ト作り、或ハ五十鈴、河波、片男浪、鈴鹿山頭、浪速江、石清水等、往々ニ集中ニモノセタリ、紀行等ノ所ニ到リ實ヲ記スルハ、其文字ヲ擇ハスシテ用ル例アリ、杜子美カ、滴博雲間、成蓬婆雪外城、ノ類、好シトハセス、好カラザル地ノ名ヲ作り入レストモ、作リヤウハ種々アルベシ、況ヤ他所ニテ作ルニ、此方ノ地名ヲ用ルニハ、人

ノ名モ何左衛門、何太郎ト用フベシ、ソレニテハ詩ニナラザル故、子猷淵明ヲ用ルニアラズヤ、唐人トテモ、地名ノヨキハ作り、ヨカラザルハ除ケルナリ。

一 漢土ノ俗語甚ダ多シ、今其一ニヲ舉テシルセリ、餘ハ推テ知ルベシ。

這箇コト一箇ヒトツ個コト將來モトメ又將去オシシ一樣シタイク子細カチワスカタニ細シ取次マヤクシキ恁麼マヤクシキ活潑地ウツクシ滿腔ウツクシ

子コノ沒巴鼻イマヘバコトナシ暗裏シムシ幾番イソバヒ

其外語錄佛經等ニ俗語多シ。

一 昔ノ雅語ノ、今却テ俗ニナルアリ、タトヘバ、詩經ニ、勿レ使ム龍リウ也ニ吠ヘ此語當時ハ雅ナヘルシ、今ハ俗ニキコユ。

一 又古詩ニ、努力餐飯ヲ加ヘヨト云モ同ジ、和歌ニモ此格アリ、キツニハメナデクダカケノト云ヘル、當時ニテハ雅語ナルベシ、今ニテハ、ヒラタク聞ユ、昔吟シテ吟咏セザル詞、和歌ニ甚ダ多シ、詩ニモ此類多シ、但和歌ハ事セマキ故ニ、コレハ今吟セスト禁ズ、詩ハ文字ヒロシ、一々舉クベカラズ、故ニ人々眼力ヲ以テ其字ニ就テ見シルベシ、故ニ其制ヲ書傳フ。

一 舊字ニテ雅ナル字。

遮莫アハツクモ阿那アハツクモ家李白詩君生怕僕我也俗傲女謂男
已上ハ昔モ俗字ナレトモ雅ナルヲ以テ用ヒ、今尤雅ニ入ル。

一 文字俗ニテ趣向雅ナル句。

林下何曾見一人何曾盡買取書籍杜

醉把茱萸子細看子細嬌兒惡臥踏裂衣杜

昔與汝爲鄰今與汝爲臣汝一杯酒令汝壽千春

コレ孫皓爾汝歌ナリ。晋ノ武帝吳ヲ亡シ、吳王皓ヲ臣トス。因テ吳俗ノ爾汝ノ

歌ヲノツム。皓即チ此歌ヲ作ル。爾汝ハ吳俗ノ甚ダイヤシキ語トイヘトモ、其

作ノ好ヲ以テ、此詩雅ニナル。

此餘、應璩三吏ノ詩、又ハ古今童謠等ニ、俗事多シテ却テ雅ナルコト多シ、明詩ノ古風五言絶ニ、俗事俗情ヲ其マ、用テ甚ダ華奢ナル多シテ、却テ雅語ノ詩ヨリモ遙ニ勝ル、コレ古意ヲヨク知テ、皆アツカヒノ上手ナルカ故ナリ、此手段通達セバ、詩ハ既ニ高妙ノ地位ニ到ルト云ベシ、コレ此方ノ人ノ一代精力ヲ盡シテモ、夢ニタモ知ル所ニアラズ、律詩ノ新體ハ近世作者ナキニアラザレトモ、爰ニ至テハ、我未

ダ一人ヲ見ズ予昔ヨリ此古詞ヲ好テ一種ノ詩門ヲ啓ンコトヲ思フ獨對州ノ松浦禎卿此趣ヲ知ルノミ恨ラクハ志ヲ同スル人ナキコト姑ク一得ノ愚作ヲ左ニ

ノス見ル人東施カ嬰ヲ笑フベシ。

男子勿種蘭 蘭生香自無 種蘭若無香 不異艾與芻

姜在江北住 卽向江南行 江南風雪惡 留郎著衣裳

儂有一段綺 裁作鴛鴦幃 不作同心被 只恐淚汚衣

去年二月時 東風送君去 今年二月時 東風問無語

一 文字モ語モ俗ニアラズシテ全篇俗ナル詩アリ

宋之間カ紅梅院ノ詩及ビ再入道場應制又有所思ノ七言古風一首盧全カ逢鄭

三七言絶一首李太白瀑布七言絶一首

一 句ニハ

杜審言 梅花落處疑殘雪 楊柳開時只任風

劉長卿 欲寄狂夫書一紙 家住成都萬里橋

王維 萬國衣冠拜冕旒

韓偓 捲荷忽被微風觸 瀉下清光露一盃

李群玉 莫放焰光高二丈 來年燒殺杏園花

薛能 隔溪遙見夕陽春 及下二句

此外猶多不暇枚舉

一 一生ノ詩總テ俗ナルアリ。

白樂天集中皆俗ナリ、コレ俗字ヲ用ルニモアラズ、又俗語ヲ用ルニモアラズ、其詩ノ風體自然ニ俗ナルナリ、スベテ耳近ニ作ルハ、ミナ俗ニナルコト、ヒラタク、タケヒクケレバナリ、張籍カ詩モ、間俗ナル多シ、後世ニモ、亦俗字ヲ用テ自ラ俗ナルアリ。

一 實事ヲ言ヘバ、俗ニナルアリ。

詩ニ實事ヲソノマ、用レハ、卑俗ニシテ聞ニ堪ヘス、樂天カ俗ナル、多ハ此病ニヨレリ、然ラバ、詩ハ皆虛ヲ云ノミカト不審スベシ、虛ニハアラズ、實事ヲ云ヘバ、ヒラタク卑キ故、其中ノ雅ナル事ヲ擇テ、尙潤色シテ、ヤサシク、シホラシキヤウニ作ルナリ、コレ鐵ヲ化シテ金ト成スノ手段ニテ、兩ノ月ニ晴タルト云、寒日ニ

暑シト云如ク、ナキコトヲ云ニハアラズ、若クハ其所ニナキコトヲ云タメシアリ、コレハ借用ルモノニシテ、虚ニアラズ、但其雅景、雅趣、雅物、雅興、雅字、雅語ヲエラヒ用フベシ、其感セシムルコト、虚ヨリモ實事ヨリモ百倍スベシ。

右スベテ雅俗ノ品、大概カクノ如シ、苟モコトニ通シテ、其俗ナルヲステ、雅ナルヲユラビ用フベシ、一タヒ雅ニ入レハ、即チ詩ヲ成シ、一タヒ俗ニ入レバ、詩ヲナラズ、古人タマシク俗句俗字ヲ用ヒタルハ、外ニ其俗ヲ減スベキ趣アレバナリ、王維カ萬國衣冠拜冕旒ト云一句ハ、俗ナリトイヘ、俗ナル故ニ、句體太々重シテ、太平ノ氣象、富貴ノ體アル所勝レタリ、モシ甚ダ風雅ニ句ヲ作ラントスレバ、弱クナリ、圭角出來テ、句體サヒシク寒クナル故ニ、ソレヲ嫌ヒタルナリ、既ニ岑參カ、花迎、初、柳、拂、旌、旗、露、未、乾ト云ヘルハ、殊ノ外ニ風雅ニシテ、微塵モ俗氣ナシ、ソレユエ句カラ寒ク冷キ所アリテ、和暖ノ氣少シ、王維コレヲ知テ、寧俗ニナルトモ、濃厚ナル方、太平ノ氣象ニ相應スルヲ取レリ、如此品ヲ知ラズ、古人ヲ誦ルベカラズ、然レトモ、學フ人ハ其雅俗ヲ知ルコトナクンバ、俗ニ陥リヤスキヲ以テ、今右ニ古人ノ俗句ヲ舉テ記スノミ。

古詩ヲ覺ユル事

凡初テ詩ニ志ス人ハ、古人ノ詩ヲ、數多記誦スルコト第一ノ義ナリ、然レトモ、小僧ノ經文ヲ讀オホエタル如ク、義理ヲ辨ヘズ、徒ラニ記憶シタルハカリニテハ、何ノ詮アラント思フ、故ニ人々先ヅ義理ヲ早ク知ランコトヲ望ムハ、尤ナルコトトイヘトモ、外ノ學問ト事替リ、詩ノミニ限リ、先ヅ義理ハ知ラズ、文段ハ通セストモ、ヒタスラ古人ノ名詩ヲ數多オホエ、且日夜繰返シ、誦讀スルコト、後々ノ爲甚ダ益アルコトナリ、其子細ハ、詩ハイツモ云如ク、天地自然ノ聲ニシテ、人情ノ已コトヲ得ザル所ヨリ發動セルモノナレバ、聲音ノ道、尤以テ面ナリ、然シテ、義理ハ自然ト其中ニ屬ス、タトヘバ、人ノ笑フ聲ヲ聞クトキハ、何事ト云ワケハ知ラザレトモ、先ヅ可笑コトト心移リ、哭泣ノ聲ヲ聞テハ、何事ト知ラザレトモ、先ツ哀ノ情中ニ動ケテ、況ヤ其笑フ子細ヲ知り、其泣ク故ヲ尋ネ知リタラバ、聞人ノ情尤以テ深カルベシ、詩モ亦如此ニシテ、先ヅ其詩ノ、或ハ恨ミ或ハ哀ミ、或ハ喜ビ或ハ怒ル所ノ聲音ヲ、口ニモ唱ヘ覺エ、耳ニモ聞オホユルコト、第一ノ義ナリ、畢竟詩ハ聲音ノ道ナリト心得ヘキナリ、其上ニテ、其詩ノ故事來歷意味文義等ノ講釋ヲモ聞キ、自分

28
ニモ考へ覺ルコト尤ナリ、カヤウニ最初ヨリ學ビ入タル詩人ハ、後々妙ヲ得ルコト易ク、又詩ノ本意ニ通シ易シ、是其若年ヨリ學ビ來テ、心ニ得ルノ傳ナリ、世上ノ斯道ヲ學フ人ヲ見ルニ、古人ノ詩十首二十首口スサムト、其マヽカシコノ杜律ノ講、コヽノ三體詩ノ講ト尋ネ求テ、其文義ヲ鑿リ、又抄物ニタヨリテ、文義ヲ推スニ年月ヲ送ル故、其詩ノ文義ハ一段心ニ合點シ、口ニモ言ヒホトケトモ、自ラ作ル時ニ至テハ、古人ノ句調ヲ更ニ胸中ニ覺エサル故、自分ノ句調ニナリ、義理ハ聞エテモ、詩ノ句ニナラス、或ハ咄ハナシノ如ク、或ハ歌ノ如ク、甚キハ俳諧狂言ニモ至ル事、宜ナルカナ、漢土ニテサヘ、學ビ難キ此詩ナルヲ、本邦假名言葉ノ國ニ生レテ、日夜言フコトモ聞コトモ、方俗ノ言葉ナルヲ、一旦俄ニ風雅ノ聲音ヲ作り出サントスルコト楚人ノ齊語ヨリモ猶以テ難シ、偶右ノ意附テモ、文義ノ穿鑿ハカリ面白クナリ來ルモノ故、再ビ變シ難シ、宋朝ノ詩ハ、理窟ニワタリテ、三百篇ノ本意ニアラズト云コトハ、文義ヨリ入リタルモノナレバナリ、唐詩ノ濃厚和平ニシテ、國風雅頌ニ近シト云ハ、聲音ヨリ入タルモノナレバナリ、故ニ先ヅ古詩ヲ、ヒタスラ吟詠シテ、其詞ニナル、コト第一ナリ。

吟咏

凡詩ヲ讀コト、他ノ書ヲヨムニカハリテ、聲音ノ道ナル故、吟聲ヲ擇フコト、最以テ
 專要ナリ、ヒタト吟シ返シテ見レバ、自ラ心ニ徹シ面白キ所アルナリ、然レトモ、斯
 道執心深キニアラザレバ、ウハノソラニ吟シタリトテ、其意味アラハルベキニア
 ラズ、イカニモ、心ヲ留メ神ヲ凝シテ、打吟シ、見ルニ於テハ、自然ト妙處アラハ
 ルベシ、其時吾作り出ス詩ヲモ、右ノ句調ニ叶ヒタルカ、叶ハサルカト、又吟翫スレ
 バ、相違ノ所見エテ、自ラ氣ニ入ラザル故、ヒタト右ノ句調ニ合セント作り成スベ
 シ、凡クシテ、獨自ラ古人ノ句調ニ叶ヒタル句出來ルナリ、コレ詩道上達ノシルシ
 自ラ見ル所ニシテ、最モ捷徑ナル法ナリ、吟聲ヲモ充見ルコトナリ、カノ方俗鄙言
 ノ口氣ニテ、ムサト作り出スコト、千萬卷ノ書ヲ讀ミ、花鳥風月ニ耽リタリトテ、句
 調ハ凡俗卑下ノ劇談ニモ劣リ、里巷童稚ノ歌謠ヨリ無異ナルベシ、吟聲ノ事ハ筆
 ニ盡シ難シ、姑クコレヲ口授ニ托ス。

古風近體同異

凡唐ヨリ以前、三代ヨリ以後ノ詩ヲハ、皆古詩トス、其中詳ニ分テハ、堯舜三代ヨリ

秦マテノ詩經ノ外ハ、多クハ歌謠ノ體ナリ、歌謠ト云モ、詩ノ一體ニテ、詩ハ諸體ノ總名ナレトモ、今ニテハ詩ハ、詞ノミヲツラネテ、サマ調子、拍子ヲモ付ケサルヲ云フ、歌ハ、節ヲ長クツケテ面白クウタヒ、謠ハ、一口ニウタヒテ、サノミ節モナク言フナリ、サテ秦ヨリ後漢魏ニハ、四言五言ノ十餘句廿三十句ツ、竝タル詩多シ、然レトモ、其風古雅ニシテ、三百篇ノ趣ニ近シ、其近キ子細ヲ詳ニ論スレバ、ダトヘバ、青青河畔草、鬱鬱園中柳ト云ガ如ク、下ノ盈盈樓上女、皎皎當窓牖ト云興ス、蓋興ノ體ニテ、即チ肅肅兔置、椽之丁丁、赳赳武夫、公侯干城見置比ノ體ニシテ、全ク興ノ意多シ、又蘭生有奇香、又棗下何纂纂ト云フ如キ、全ク比ノ體ヲ得タリ、此等ノ類、後代ノ律絕、當座ノ風景バカリ、賦シタル詩ノ及フ所ニアラズ、且又句作章法モ自ラ格別ナリ、古詩ハ全篇ニテ一趣向ヲ叙テタルモノ故、一句二句ノ善惡ニモ、又ハ文字ノ精粗ニモ、サノミ構ハス、唯一篇ノ氣象意味ノスグレタルヲ好ムコトナリ、其上多クハ長篇ノ二十三十句以上多キ故ニ、二句ニ一事ヲ竝ベテ一句トナシテ轉スルコト多シ、或ハ越鳥巢南枝、胡馬嘶北風ト云ル、二句共ニ故郷ヲ忘レザルノタトヘナリ、此類甚ダ多シ、又起句ニ同意ナルコトヲ、二句ニワリテ起スコトアリ、去者

日以疎來者日以親ノ類ナリ、律詩ハ句數少キ故、二句同意ナルコトヲ竝ベテハ、先ニテツマリテ留メ難キ故、一句一句ニテ心キル、ヤウニ仕立ル也、若シ二句一意ナル、減却月中桂、清光應更多ノ類ハ、二句ノ意ハ一意ナレドモ、句體ハ竝バス、一事ヲ二句トナシテツラスルコトハ、凡ソ古風ノミニカキルコトナリ、七言古風ノ對ノ場合モ、大抵此心持也、皆其詩ニ就テ翫味スベシ、兎角古風ハ一篇ノ面白キコトヲカサネテ、全篇ハ下意ヲへ通スレバ、少シ其詞ノ離レタルヲ好トス、五言絶句ノ一ツトキニ云下スカ如キハ、却テアシ、是先ヅ古風律體ノ大概ナリ、古風ト律ト竝ベテ吟翫スルコト久シケレバ、自ラ同異ハ見ユルコトナリ、強テ分ツニ暇アラズ、其詳ナルコトハ、口傳ニアラザレバサトシ難シ、能ク筆紙ノ盡ス所ニアラズ、自ラ玩索シテ得ンノミ。

詩

訣

終

日本詩話叢書

大正九年一月二十日印刷
大正九年一月廿三日發行

日本特許證書 第一卷

非賣品

編輯者

池田四郎次



發行者

立田義元

印刷者

高木鳥三

印刷所

株式會社 秀英舎 第一工場



發行所

東京市神田區
小川町一番地

文會堂書店

電話神田三二一六番
接發東京三五一三番